教育合同

２０２０年９月１５日
第６６４号
１部１０円（組合員は組合費に含む）
郵便振替００９６０－７－１１７２７４

発　行　大阪教育合同労働組合
Education Workers and Amalgamated Union Osaka(EWA)
発行人　増田　俊道
連絡先　大阪市中央区北浜東１－１７　８Ｆ
Tel (06)4793-0633　Fax(06)4793-0644　E-mail: info@ewaosaka.org　http://www.ewaosaka.org

2020　全学労組　文科省交渉

変形労働時間制より、まずコロナ対応をしっかりせよ！

2020年８月24日、全学労組７組合２３名による今年度の文科省交渉が行われました。文科省からは初等中等教育局の５名が出席しました。途中から福島みずほ議員も組合に合流しました。限られた時間の交渉なので、今回は、「変形労働時間制」と「コロナ禍での教育活動」を柱に進めることにしました。

再来年度の教員勤務実態調査実施を文書回答

今回、事前に出していた申入書に対し、文科省から初めて文書で回答があり、長年にわたって取り組んでいる「給特法廃止」の申し入れに対し「令和４年度に勤務実態調査を実施し、〔中略〕教師の勤務環境について給特法などの法制的な枠組みを含め検討を行っていきます。」と回答しました。

「改正給特法」が成立し「１年単位の変形労働時間制」の導入が可能になり、全学労組は運動の対象を各自治体の条例阻止に向けていくとしていましたが、「条例制定について文科省は強制しないこと」を申し入れ、それに対して文科省は「強制はない」と回答しました。

現場は３密どころではなく、勤務内容も「密」である

「変形労働時間制導入には『時間外在校等時間』が上限、月４２時間以内、年間３２０時間以内という『前提』があるが、実施できるのか？」との質問には答えられず、組合員からは「実質的には失敗なのではないか」と声が上がり、「適正な勤務時間を守るには、給特法で想定されていない時間外労働がないように徹底指導するか、労基法を適用するか、どちらかしかないだろう」と詰め寄りました。

コロナ禍が続いているにもかかわらず、３密回避できない教育環境や学習内容を一部次年度以降に繰り越し可としているが次年度以降実施の新学習指導要領では内容増加で整合性がとれていないことに対しては、「新しい時代の学び」を提言していることや補正予算で検討していること、年間授業時数を下回ってもよいと通知している、と回答していました。

現場で即効力が期待できる内容はなく、逆に授業時数が足りないと煽られ、盆明けすぐ、炎天下の中で登校、学校生活が始まっている実態を報告しました。

最後に短時間になってしまいましたが、免許更新制最後の更新を５５歳にすること、「日の丸」「君が代」問題に関して「セアート勧告」を受け入れることを申し入れて今回の交渉を終わりました。

千葉県で「変形労働時間制」導入の動き！

先陣を切って、９月２日、千葉県教委が「変形労働時間制」導入のためのスケジュール説明会を開催。12月に条例化が通れば、１月に県教委は実施細則を決定の予定だとか。次は、その説明会での、全学労組の千葉学校労働者合同組合・組合員の発言です。

「文科省の指針では、変形労働時間制を導入する学校現場では、超過勤務時間が年間３６０時間、月４２時間を超えてはならないと規定しているが、実施できそうな学校が県下にあるのか？(ないから答えられない)。また、文科省は必ず導入せよと指示していない。県下の学校で導入できないものに、時間をかけて条例作りをするなど無駄なことはやめて、現実の学校現場での超過勤務を減らすための具体策作りに頑張って欲しい。」

この提言に賛成です。大阪も同じ状況ではないでしょうか。

髙田晴美（副執行委員長）

当面の日程

●９月17日（木）18時半　@エル大阪604
大阪全労協学習会「Gapを崩そう!～Gender Gap121位の日本で～」

●９月21日（月・祝）～22日（火・祝）　エルおおさか
（21日は10時～20時、22日は10時～18時）　入場無料
「アジアから問われる日本の戦争」展

●10月８日（木）８時～13時　大阪地方裁判所前公園
10･8判決　労働組合つぶしの大弾圧を許さない!座り込み集会

●10月11日（日）14時～16時　大淀コミュニティセンター・ホール
五輪・万博・都構想はいらない10･11集会・デモ

●11月９日（月）11時半 大阪地方裁判所809号法廷
岸和田支援学校　看護師パワハラ不当解雇事件　最終弁論

※傍聴支援、よろしくお願いします！

新しい日常は20人学級から

教育現場の労働者が　誰でも入れる　みんなでつくる教育合同

大阪市 中学校・教科書採択　歴史・公民教科書で育鵬社不採択!!

ようやく採択の公開性、透明性が実現する

８月25日、大阪市教育委員会は来年度から使用の中学校教科書で、歴史・公民教科書を市内４地区すべてで育鵬社を採択しませんでした。2015年の橋下市長の時には、傍聴者を締め出し、別会場で密室・非公開で育鵬社に決められました。その後、フジ住宅の社員を動員した水増しアンケート問題が発覚し、裁判で「思想・信条の自由の侵害」と厳しく断罪された経緯があります。今回、市教委は教育センターの講堂に、80名定員のところ抽選なしで三密を避け、89名全員入室させました。ステージ上に山本教育長以下５名の教育委員が並び、各地区ごとの専門委員から出された厚さ3.5㎝の「答申資料」に対し、各教育委員から質疑応答があり、異論もなく、最後に山本教育長の「原案どうり採択します」との一声で次々と採択されていきました。

前回との大きな違い

今回の採択で大きな注目すべき点の一つは、前回は全市一括採択だったのが、４地区に分けて（都構想の４特別区の先取りか？）それぞれ別々に採択されたことでした。とりわけ注目された第３地区（例の大正区をふくむ）が歴史・公民とも東京書籍で、育鵬社の「い」の字も誰からも出てきませんでした。これは他の地区も同じで、どの地区でも第２位に「育鵬社」は入っていませんでした。

二つ目は、傍聴者全員に配付された「答申資料」の内容です。これまでは各社の長所欄しかなかったので、他社との差がほとんどなく、育鵬社も「良い点」を見出さなければいけませんでした。しかし、今回は「総評」の欄で各教科書の良い点・悪い点をそれぞれいくつかはっきり書かせて、マイナス評価も入りました。マイナス評価の多い育鵬社はこれではじかれていったのです。これも従来から要望していた学校現場からの意見を配慮した結果であると言えます。

大阪府内の他市の状況

前回、育鵬社を採択した四条畷、河内長野、東大阪もすべて育鵬社不採択を決めました。ただ、残念なことに泉佐野市の公民教科書だけが育鵬社に決まってしまいました。しかし、粘り強いこれまでの市民運動の力で全国の育鵬社の採択率は歴史で前回の約6.2%から1%に、公民で約5.7%から0.1%に落ち込み、教科書会社としての存続が大きく問われる結果になりました。今回の大きな成果をさらにこれからも継続し、日本会議系の右派教科書の阻止に向けて闘っていきましょう。

山口昌孝（執行委員）

約束の40年は超えてます！ 老朽原発はこのまま廃炉に！

９月６日、うつぼ公園で「老朽原発うごかすな！大集会inおおさか」が開かれました。

本当ならば５月17日に開催されるはずのこの集会は、コロナ禍により延期を余儀なくされました。未だコロナ禍は収まってはいませんが、「老朽原発をうごかすな！」という声を今こそあげるべきだ、と実行委員会の方々がコロナ禍でも可能な集会のあり方を模索し、開催にこぎつけました。集会には約1600名が集まり、また参加できない人たちのためにもウェブを使った現場中継が行われました。原発立地の福井県からもボイスメッセージやメッセージの代読により、現地でのたたかいの様子が伝えられました。

2011年の福島第一原発事故からすでに10年近くの月日が経ちました。人々の記憶が薄れる中、関西電力は運転開始後40年超えの老朽原発３基の再稼働準備を進めています。しかし原発の危険性はあの時と何も変わっていません。集会終了後は、以前よりもずっと人並が減った御堂筋をデモ行進し、原発反対の声を届けました。

酒井さとえ（書記長）

文化おちこち（229）　干支めぐり

【その９　午の巻】

1973 年の春、二人（正確には一人と一頭であるが・・・・）の怪物の登場が世間を大いに騒がせた。一人が、その年の選抜高校野球で甲子園デビューを飾った作新学院の江川卓投手、そしてもう一方の雄がハイセイコーである。地方競馬の大井競馬で６連勝を飾り、勇躍中央競馬に移籍を果たし 、デビュー戦となる３月の弥生賞には、まだ改装前の中山競馬場に12万以上の観衆を集めた。

その後、タケホープというライバル馬を得て、数々の名勝負を戦わせる。そして両馬にとってのラストランになったのが、翌年暮れの有馬記念であった。レースの方は、２番人気のタニノチカラの独走に終わるものの、２着争いのハイセイコーとタケホープに場内には大歓声が巻き起こる。結局ハイセイコーがクビ差でタケホープに競り勝った。タニノチカラが勝ったことよりも、この２頭の争いに場内もテレビも大騒ぎであった。

２頭の戦いは、ハイセイコーの５勝４敗に 終わる。この２頭のライバル対決は、その後、Ｔ．Ｔ対決（トウショウボーイ、テンポイント）、三冠対決（ミスターシービー、シンボリルドルフ）など、数多くの競馬の名勝負に繋がっていくこととなる。先述の有馬記念の後、 ハイセイコーはタケホープと共に引退する。ハイセイコーは騎手であった増沢末夫が歌う『さらばハイセイコー』という歌に乗って引退式に登場した。

ハイセイコーの登場による第一次競馬ブームの後、やはり地方出身のオグリキャップが第二次競馬ブームを巻き起こすことになる。日本人は元来、判官びいきであるというのはよくいわれるところであるが、弱い立場のものが強いものを倒していくというストーリーが共感を呼ぶのかもしれない。シンボリルドルフやディープインパクトのような完全なエリートよりはハイセイコーやオグリキャップのような野武士の強さを好むのかもしれない。

さて、次はどんな野武士が現れるのだろうか。　　（アタル）

EWA

固有名詞の安倍政権は終わったが、普通名詞としてのアベ政治は終わっていない▼なぜなら、アベ政治的発想は、あちこちにあるし、私たちの内にもある▼他人の痛みへの鈍感、被害妄想、逆ギレ、ゴマすり忖度、自己顕示欲、自己保身…▼私自身を見つめ直す良い機会だ